

18/6/22 名古屋市議会本会議 浅井正仁質問(名古屋市民オンブズマンによる、自動文字起こしアプリを用いた文字起こし結果)

次に浅井正仁議員(自民)にお許しいたします。

議長のお許しをいただきましたので、契約に締結について質問させていただきます。

指切りげんまん嘘ついたら針千本のたます。

変な音が名古屋市の観光文化交流局の職員の皆さんが、近い将来、ハリセンボンならぬ、針のむしろに座ることになる日が来るのではないかと私は危惧している件がございます。

それは2022年に間に合います。

頑張りますと、一つで言い続けている名古屋城の木造化のスケジュール問題です。

いわばスケジュールファーストで木材の調達契約が議案として今回の6月議会に提出されています。

しかし、1ヶ月もしないうちに、木材調達契約の前提としていた2022年完成というスケジュールが実は守れなくなるかもしれません。

さあ大変。

木材の保管が伸びたことに伴う追加費用負担を求められるリスクがあるかもしれないからです。

こうしたリスクがある以上、木造化に関する正確な進捗状況を議会に報告していただくことがこの契約案を本議会で審議する大前提となることはいうまでもありません。

もし、隠ぺいあるいは印象操作により議会の判断をミスリードしたのであれば観光文化交流局は行政として許されることはありません。

5月15日に開催された、掲載水道委員会の最終委員会を私は、5月29日、文化庁へ出向き、話を伺ってまいりましたが、その際の名古屋市に対する文化庁の姿勢にはなんとも言いようのない思う苦しい厳しいものを感じました。

最終委員会の資料をもとに、文化庁の方に丁寧な説明をいただきました。

そして文化庁から名古屋市に対して出された意見について記載された資料を入手いたしました。

それを見て私は愕然といたしました。

パネルをお願いします。

海外加茂ちゃんちょっとこれが15日に出された。

これが、15日の委員会が出された資料であります。

そして、これが。

文化庁からいただいた名古屋市に対しての意見であります。

その中で、委員会の中には、主な意見として三つ記載されています。

しかしながら、文化庁の方には1234等四つ記載されています。

なぜこの四つ目が記載されていないのか。

私は観光文化交流局の方にお話を聞きました。

観光文化交流局の方は、7月の基本計画、計画策定までの課題をここに。

入れましたと。

お答えされました。

意見というのは、文化庁からいただいた宿題です。

課題というのは名古屋市か思ったこと。

と考えるのが普通だと思います。

そして、ここに女と書いてあります。

主な意見、14年に10あるうちの三つならわかります。

四つしかないのに三つを書くこれは同じではなくて、ほとんどの意見といった方がいいんだよ。

ありませんか。

これは、これは本当に不誠実で済まされる委員会を資料で済ましていいのか私は疑問に思います。

こうしたスタンスは決起議会に進捗を報告するという議会が木造復元を認めた際の附帯決議の内容を軽視した由々しき姿であり、経済水道委員会にこんないかげんな資料を出した観光文化交流局は議会軽視、議会を欺いていると着られ受け取られても仕方がないのではないのでしょうか。

ちなみに、文化庁から出されたこの三つの意見にごめんなさい言うの忘れてました。

この四つ目の意見というのは、文化庁から出された。

そして部観光文化交流局が赤くしたのが、一番重要な石垣調査をしっかりとやりなさいという。その文言です。

これを韓国文化交流局は行きました。

そして、この三つの宿題にも、名古屋市は文化庁に対してまだ何の返答もしていません。

木造化の話は順調に進んで行け、文化庁にすでに2回は検討の場が設けられたと知っている方も多いはずです。

しかし、この2回は名古屋市は話題を文化庁に提供しに行っただけで議題にも上がっていません。

実質1回の検討委員会も開きませんと、私は文科省の方にお聞きしました。

なぜ、頑張るのオンパレード観光文化交流局さて、名古屋城の木造化は、文化庁が年2回開催する文化審議会において現状変更すなわち現在の天守閣取り壊し木造で天守閣を立ててもいいという許可をもらって初めてスタートします。

審議会の前には文化庁内部の復元検討委員会に7月中にかけてもらえば今年10月の審議会が開かれる見通しが立ちますが、現時点ではその見通しは立っていないのではないのでしょうか。

何も立っていない。

本丸御殿でさえ3回開催された復元検討委員会であります石垣のある木造復元で果たして7月の1回で了承されるのでしょうか。

観光文化交流局の方は業調現状でも素晴らしく、ポジティブで頑張りますと答えます。

うまくいけばそれに越したことはありません。

しかし2022年度に間に合わなく可能性が現時点では十分。

ありえるとも言っても過言ではないと思います。

そのリスクマネジメントも考えないで、今後の追加費用負担を発生するおそれがあるかもしれないという話を正直に説明していただけないと、我々議会としても正しく判断ができないのではないのでしょうか。

さらに天守閣を閉館しますという告知をしていた名古屋市のホームページが突然修正されました。

同様に名古屋城が作詞した木造化のために天守閣閉館と書かれた名古屋城のパンフとがあります。

それだ。

これです。

これを名古屋町、観光文化交流局の方は一般の方に配布していました。

しかし、これをなぜ配布をやめたのか、ホームページを修正したのか。

それは文化庁から指摘があったからです。

5月7日の閉館に伴い、文化庁とは木造が復元ではなく、それは耐震目的認めたとっておられました。

そしてその私的 OK 名古屋市はホームページを修正し、そしてこのパンフレットの配布をやめました。

この裏っかわに。

現在の天守閣は木造復元事業のため、平成30年5月7日(月曜日)から入場禁止閉館となります。

これは確信犯なのか、それともミスライクなのか。

どちらなのでしょう。

一体このゴタゴタは何を意味するのでしょうか。

日大ラグビー部問題では、監督コーチ選手のうち、一体誰が指示をしていたのか、大きな焦点となりました。

名古屋市では果たして誰が監督で、誰が高知で誰が選手なのでしょう。

そこで観光文化交流局長にお尋ねします。

本日は6月20日で、6月も残りあと1週間となりました。

すなわち、6月に石垣美海が改正され、開催されないことがはっきりとしましたが、果たして、文化庁内部の検討委員会が7月に開催されるのでしょうか。

さらに、今年10月の文化審議会にもかけられるのでしょうか。

このままでいけば 2022 年に間に合わないのでしょうか。

木材調達契約を締結した後に、2022 年に間に合わないことが発覚した場合、名古屋市が追加負担を求められる費用は一体幾らなのか。

お尋ねいたします。

そんな中、木材、木造化の前提として文化庁からは石垣の調査センターのようなちゃんとした体制組織を作りと作るという宿題が出されていますが、その宿題にどのように対応していくのか、お答えください。

さらに今後、文化庁からの宿題をこなさきれず。

石垣部会も開催できなかった場合、石垣調査が満足に気にできず。

来年 5 月の審議会にも間に合わなくなるので、木造化の完成は 2022 年には完全に間に合わなくなります。

その場合、2022 年という完成時期のスケジュールを見直すということになるのか、3 問答弁観光文化交流局長にお願いしておきたいと思います。

はい。

渡辺観光文化交流局長。

契約の締結につきまして 3 点のお尋ねをいただきました。

初めに、スケジュールの遅れによる追加負担についてでございます。

石垣部会に関しましては 7 月に開催し、石垣保全に関する資料をまとめ、文化庁に提出してまいりたいと考えております。

議員お尋ねの追加負担につきましては、現在会では想定しておりませんが、竹中工務店から提出されました今回の木材調達契約に係る見積もりによれば、木材の保管料につきましては、年間 1 億円となっておりますのでございます。

次に、文化庁からの宿題の対応についてお尋ねをいただきました。

調査研究体制の強化につきましては、現在考古主幹一名、併任はございますが、考古史学一名、口角が原因 2 名、そして歴史の色と色沢学園 3 名の体制で進めております。

さらに速やかに体制を強化するためにこの嘱託学園に名を 4 月に募集する準備を進めております。

現有体制の底上げを図りつつ、できる限り早く調査体制を強化することも視野に入れ、調査を取りまとめていきたいと考えております。

さらに、熊本城や金沢城を参考に調査研究体制の調査研究センターの設置の検討を含め、研究体制の強化を図ってまいりたいと考えております。

次に、完成時期の見直しについてお尋ねをいただきました。

現在文化庁からは過去 2 回の復元検討委員会では、議題とされている議題としては審議されておらず、話題事項として報告されたと伺っておりますが、その報告の際に併せて 7 点ご意見をいただいております。私どもといたしましては、戦後年文化の象徴である RC および SRC 作り天守を解体するにはなお議論を尽くす必要があるし資料の方さということのみで、名古屋城天

守を木造とする考えが正当化できるかどうか検討を要する。

天守解体及び木造天守建築時における天守台石垣に対する影響を考える必要がある。

石垣の調査が継続中継続中であるため、報告がされていない石垣の構造解析が難しいし、時間がかかると思うの2点が主な課題であると認識しております。

現状変更許可が予定通りに取得できなかった場合、スケジュールを見直すかどうかにつきましては、極力そうならないよう全力を尽くしてまいります。基本協定書に基づき、優先交渉権者と協議することとなるところでございます。

以上でございます。

白浅井正仁ご答弁をいただきました。

課題があると答弁がありました。

課題があるのは当たり前の話です。

何を答弁されているんでしょう。

では、10月の文化審議会でも現状変化許可のしよ。

文現状変更許可の取り消しが取得が難しい状況であると認識しているのでしょうか。

また、現状変更変更許可が予定通りに所得できない場合同様のどのようなリスクがあると認識しているのか、広沢口副市長にご答弁をお願いします。

古沢副市長。

現状変更許可取得に対する認識についてお尋ねをいただきました。

現状といたしましては、石垣の調査結果を取りまとめることとその結果に基づき、特別史跡の本質的価値を構成する石垣の保存の考え方を検討することなどを短期間に行う必要があり、スケジュール的に厳しい状況であると認識をしておりますが、工期が間に合うように全力を傾注してまいります。

現状変更許可が予定通りに取得できない場合により、スケジュールの見直しが必要となった場合に想定されるリスクといたしましては、今回の木材調達契約に係る木材保管料の追加負担が発生することが考えられます。

他の契約は現状変更許可後になるためそれ以外にリスクとして、想定できるのは、スケジュールの見直しによる建設コストが上層上昇する可能性があることだと考えられます。

以上でございます。

はい浅井正仁君。

今回の一連の出来事はなぜ起きたんでしょうか。

そして2022年に間に合わなくなりそうなものつぼ全て。

人手不足が原因なのではないでしょうか。

この質問で職員の皆さんは非常に一生懸命やっていると感じました。

しかし、目の前のことで手一杯。

だと思っ感じました。

2022年、スケジュールありきで動くために目の前のことしかできない現状。

市長。

関係局の皆さん。

調査センターの設置は喫緊の課題です。

人手不足なんです今すぐにでも設置が必要だと私は思っております。

私は木造復元に判定反対しているわけではございません。

505億の事業費が市民との約束だったと思っています。

だからこそ、行政として丁寧な説明が必要なのではないでしょうか。

私は、皆さん。

名古屋市を木造復元をやまない皆さん、そして議場による皆さん、そして、多くの市民の方に

今のこの現状を知っていただきたく、この質問をさせていただきました。

以上で私の質問を終わります。